

アドバイスレポート  
(別添1)

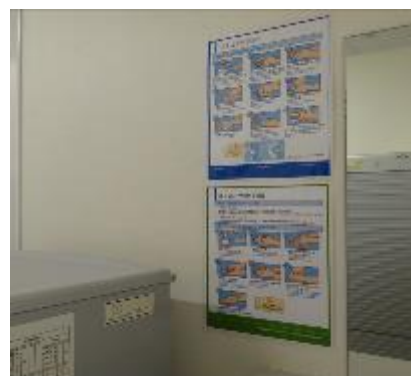
部署名：C棟1階



患者の特性上、病室等に手指消毒薬の設置が難しいとのことですが、ナースセンター前等設置可能な場所にはきちんと設置されていました。



シンク周囲には汚染した水はねを受けるような不要な物品は置いてなく、きれいに乾燥していました。また、スポンジには使用開始日の記入があり、直置きもされていませんでした。



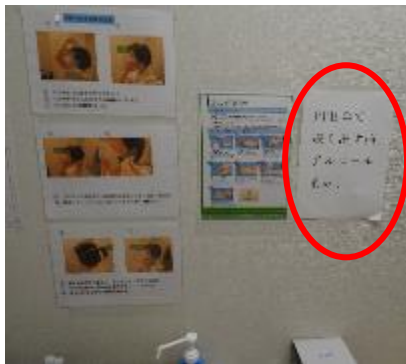
手洗い場に「正しい手の洗い方」と「正しい手指消毒」の掲示がありました。



開封後の使用期限が書かれた製剤の一覧表が掲示してありました。



冷蔵庫は医薬品保管用とし、飲食物などの混在はありませんでした。稀に冷所保管が必要な検体を保管することがあると伺いましたが、検体は湿性生体物質であり感染性があるものと考えて取り扱う必要があるため、食品や医薬品と同じ冷蔵庫での保管は避けるべきです。



個人防護具の着用場所には正しく手指衛生出来るようにポスターが掲示されていました。掲示物は用紙が折れ曲がり埃が蓄積しやすい状況となるため、清拭できるようラミネートすることをお勧め致します。



滅菌パックの使用期限が3か月に設定されていましたが、期限切れが見られました。定期的に点検することをお勧め致します。



滅菌物が輪ゴムでまとめられていました。包装が破れることによる滅菌破綻の原因となりますので輪ゴムは使用しないようにして下さい。



概ねプラスチックの仕切りやケースで管理されていましたが、一部で紙製の箱を保管容器として再利用されているところがありました。紙は湿気を帯びやすいため微生物が繁殖しやすく、また洗浄や清拭清掃することも困難ですので、プラスチック製の容器を使用することをおすすめ致します。



衛生材料を保管している引き出しに汚れがあります。清潔な物品を保管する場所ですので、定期的な清拭清掃をご検討ください。



針廃棄容器が廃棄基準を超えて使用されていました。針刺しや切創の危険があるため、廃棄基準の8割を超えて使用することは避けましょう。



ミキシング台のフックに輪ゴムがかかっていた。埃が溜まったり、清拭清掃の妨げになったりします。



インスリン用のロードーズ注射器は本体に使用期限がなく、外装に記載されているため、外装ごと保管するか、期限を明示した状態で保管されることをおすすめ致します。



ナースステーション内の感染性廃棄物の容器に使用後の注射器が廃棄されていました。患者さんによっては針廃棄容器を持参することには危険が伴うこともあるとのことですが、針刺し防止のためには使用後の針は速やかに廃棄するのが理想的です。可能な限り針廃棄容器を携行するようにしましょう。



カートの上部に清潔区域、準清潔区域、不潔区域の物品についての細かな表記がしてあり、カートにも区域わけの表記がされているのでとてもわかりやすいです。



リネン棚の注意喚起、とても良いです。



天井の給気口やエアコン周囲にもカビが発生していました。カビは、種類によっては真菌感染症やアレルギーの原因ともなります。湿度管理、換気、定期的な点検と清掃の実施等が必要です。詳細は、「院内感染対策実地支援に係るアドバイスレポート」を御参照下さい。



トイレの前に設置された一般廃棄物用のゴミ箱にビニールエプロンが多数廃棄されており、ゴミ箱からはみ出していました。非感染性の判断であったとしても周囲の環境を汚染しないよう小さくまとめて廃棄するように周知をお願い致します。



部署名：B棟



今回のラウンドでは1患者のみ確認しましたが、尿道留置カテーテルの集尿バッグが、膀胱より低い位置でかつ床に接触しないようにきちんと管理されていました。04\_ネットワーク評価表のH-2 2) 集尿バッグが膀胱より低い位置にあり、かつ床についていないの項目で「職員の認識不足」とされていましたが、膀胱より高い位置に集尿バックがあった場合はその都度、理由をそえて指摘することにより周知されていくと思います。



末梢の血管内留置カテーテルのライン挿入部にはドレッシング剤が貼付されており、カテーテル走行部の皮膚が観察できる状態できちんと固定されていました。しかし、挿入日の記載がありませんでした。また、静脈炎の有無の観察を行っているとのことですが、記録に残されていませんでした。持続点滴は、静脈炎や皮膚トラブルの異常が無いことが前提です。挿入日の記載と観察結果を記録に残す体制を整えることを御検討下さい。



リカバリールームではベッドサイドに个人防护具が設置され、必要なときに必要なPPEが着用できるよう整えられていました。しかし、吸引器と密接しており、飛沫によってPPEが汚染されるリスクもありますので、設置場所をご検討ください。



滅菌物が、一部扉の無い床に近い場所で保管されていました。滅菌物は、床から少なくとも20cm、天井のスプリンクラー設備周辺から45cm以上、外壁から5cm以上の距離を確保する必要があります。保管方法を御検討下さい。



ミキシング台の引き出し部分が壊れても大切に使われていた様子が窺えます。テープ類は粘着部分の汚れが付着しやすく、清拭清掃も不十分になる原因となります。費用はかかりますが、新しい台の購入をおすすめ致します。



遮光袋は基本同一患者に使用されていましたが、使用後は衛生材料の引き出しで保管されていました。使用前の清潔な物品との交差を避けるため、ベッドサイドに持ち出したものは清潔エリアに戻さないようにしましょう。



患者に触れる物品、皮膚に使用するテープ類、文房具系のテープ類、患者個人のもの、ベッドサイドに持参して使うもの、清潔に保管しておくべき消毒綿棒や衛生材料などが混在しています。未使用の滅菌物などが汚染され交差感染のリスクにもなり得ますので、個人用のもの・患者に直接触れて使うものはまとめて保管するのではなく、区別して保管することをおすすめ致します。



救急カートの中にあったクーパーは滅菌の包装が開いており、包装にシミも見られました。クーパー自体にも錆のようなものが見られます。滅菌物は定期的に滅菌期限や包装の破損による滅菌の破綻や汚染がないかを確認することをおすすめ致します。



感染性廃棄物がナースセンター内にレッドゾーンを設けて設置されており、血液汚染のある廃棄物等も廃棄されていました。非感染性医療廃棄物用のゴミ箱や机とも隣接しており、周囲には清潔なワゴン車等も置かれていました。感染性廃棄物を廃棄する際は、周囲の環境との接触や汚染を飛散させないこと、廃棄物のはみ出しが無いよう必ず8分目以下で廃棄する等、十分な注意が必要です。



注意喚起の記載があり、とてもよいです。

一方で、蓋と容器をその都度一緒に交換されていないようでした。感染性廃棄物により蓋も汚染されている可能性があります。注意喚起を貼る場所を工夫し、容器の交換時には蓋も同時に交換することをお勧め致します。注意喚起を守り、中身は8分目以下でした。



シンクの排水口に黒カビが見られました。シンクの排水口等の湿潤環境はグラム陰性桿菌（緑膿菌、セラチア菌、CRE：カルバペネム耐性腸内細菌科細菌等）が増殖しやすく、アウトブレイクの原因となることもあります。水回りは常に乾燥させるように心掛け、定期的な清掃や次亜塩素酸ナトリウムによる消毒を行う等、衛生管理の徹底をお願い致します。



汚物処理室のPPEはラックで適切に保管されていました。



前回指摘事項であった、汚物処理室の汚物処理槽を洗浄するブラシは吊るして乾燥するよう工夫されていましたが、ラック自体が落ちてしまっています。



消毒済みの尿器は蓋付きの容器で清潔に保管されていましたが、汚染リネン用のランドリーバックと隣接していました。後ろのラックに準清潔エリアなどを設けて物品を保管されていますので、洗浄・消毒済みの陰部洗浄ボトルと同じ場所で保管されると良いと思います。





清潔ケア用のワゴンは使用後に清掃され、不要なものは置かない状態で保管されていました。カゴに一部汚染がみられましたので、現場で清掃手順が守られているか、ご確認ください。

使用前のオムツなどが落ちないように敷かれている滑り止めシートは清拭などで清潔な状態を維持することが難しい素材であり、経年劣化のためか変色も見られます。使用前のオムツを置くエリアではありますが、誰がどのような状態の手指で触れているかはわからないため、清拭清掃できない素材のものは置かない方がよいでしょう。



病棟の棚にあった書類の中に、菌名と薬剤感受性結果が書かれたもの（作成者：臨床検査技師）があり、検出菌の把握をしていることはとてもよいです。

そして、菌名はイタリック体で感受性結果の「S」「I」「R」は段を変えて見やすく素晴らしいと思いました。

部署名：外来



処置室には手指衛生ができる環境が整っていました。シンクも水ハネがなく乾燥していました。



不織布素材のパーティションが使用されており、シミのような汚染が散見されました。不織布は清拭清掃で清浄化を図ることができません。不織布部分が交換可能なものでしたら汚染時に交換するか、拭ける素材のパーティションの導入をおすすめ致します。



アルコール綿と絆創膏を保管している入れ物は紙製の空き箱を再利用しているものと思われます。先述した通り、紙の容器は汚染しやすく清潔な状態を維持することが困難です。アルコール綿は残りが少なくなったら箱ごと新しいものと交換するか、またはプラスチックの容器を使用することをおすすめ致します。

駆血帯は患者の皮膚に直接接触するものであり、血液による汚染も受けやすい物品ですので、衛生材料とは分けた場所で保管することをおすすめ致します。

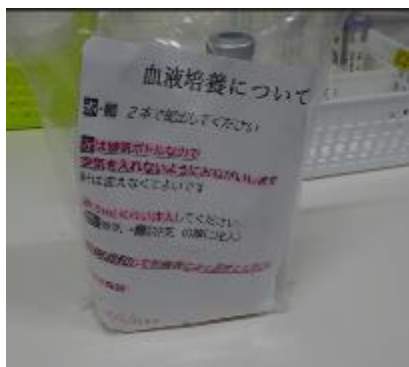


検査室の感染性廃棄物容器には使用済みの注射器と思われるものが入っていました。注射の際には針廃棄容器を携行し、速やかに廃棄することで針刺し防止に繋がります。

部署名：検査室



前回、冷蔵庫の温度チェックの記載がない指摘がありましたが、今回のラウンドでは測定作業日誌に冷蔵庫の温度チェックの記載があり改善されていました。



好気ボトルと嫌気ボトルが一袋にセットされ注意事項などが記載された紙と一緒に入っているのでとても良いと思いました。



検体を落とす、落とした衝撃で容器が破損し内容物が飛散する可能性がありますので病棟で採取された検体は蓋つきの輸送容器に入れて運んで下さい。

採取前（清潔）の容器と採取後（汚染されている）の容器は別にして下さい。



使用しているスピッツの蓋は検体が入った状態で蓋の開閉時に内容物が飛散する可能性があります。

スクリータイプか口を覆う形状のキャップの検討をお願いします。

